

# 平成24年度 【 学園研究費助成金<B> 】 研究成果報告書

学部名 文化情報学部

フリガナ ミタ タカアキ  
氏名 見田 隆鑑

研究期間 平成24年度

研究課題名 金剛夜叉明王の図像学的研究-その図像形成過程をめぐる一試論-

## 研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	見田隆鑑	文化情報学部	講師
研究分担者			
研究分担者			

### 1. 本研究開始の背景や目的等 (200字~300字程度で記述)

五大明王の1体を構成する金剛夜叉明王は、日本では東寺講堂(839年)に彫像作品として造形化されるが、その成立背景は未だよく分かっていない。この点について経典・儀軌の精読、現存作例、関連作品との比較検討を通し、解決を試みたい。また、国内の作例の中には、金剛夜叉明王、馬頭観音、愛染明王の三尊の呼称が交錯した状態で信仰対象となる事例が見られる点、東寺講堂像と系統の異なる金剛夜叉明王の図像が存在する点も、この明王の成立と展開を考える上で有益な手掛かりを持つものと思われる。そのような視点から実作例及び図像資料を整理し、金剛夜叉明王の根源的な特性を考察し、原像を明らかにすることを目的とする。

### 2. 研究方法等 (300字程度で記述)

これまでに調査を通し収集した作品ならびに図像集などに残る白描図像のデータを解析し、全体に共通する特徴、および個別の特徴を整理する。この作業の中で、現在、未調査の作例を実地調査し、より網羅的なデータを完成させる。この作業を踏まえ、例えば馬頭観音の図像と交錯が見られる頭上に馬頭をあらわす根拠が、金剛夜叉明王の所依経典である『金剛峯楼閣一切瑜伽瑜祇経』の「馬王髻」という語句に見られるように、特徴的な図像の背景を検討し、また経典の字句の選択についても、他の経典との比較からより正確な解釈を図り、原像を探求する。作品の制作年代に関しては、古代・中世のものを中心とするが、近世の作品であっても可能な限り調査を行い、作品のもつ情報を収集・整理していくことを目指す。

### 3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

本研究では、拙稿「平安時代における五大明王の受容と展開の諸相-特に彫像作例を中心に-」(『仏教美術論集2 図像学I-イメージの成立と伝承(密教・垂迹)』所収、2012年5月刊行)の中で十分に取り上げることのできなかった作品および刊行後に作品の存在を知ったものを中心に実地調査を行った。実地調査は、宮城県・大郷町教育委員会所蔵の明王像、愛媛県・松山市 医座寺の降三世明王立像、京都・神護寺五大堂の五大明王像が主な対象となった。まず、宮城県黒川郡大郷町の大郷町教育委員会が所蔵する3体の明王像に関しては、前年度の予備調査をもとに撮影を含めた本調査を再度依頼し、その成果を「大郷町教育委員会所蔵の3体の明王像について」という論文の形で『椋山女学園大学文化情報学部紀要 第12巻』(2012)に投稿した。既に『大郷町史』にモノクロ写真が掲載されているが、まとまった形での報告書などは未刊の為、紀要では尊像の写真には、研究費を充ててカラーページを採用した。本像に関しては調査に加え、地元の方から聞き取りも行えたことにより、現状での可能な限りの情報は記録できないのではないかと考えている。本作品に含まれる尊像は、金剛夜叉明王と断定できる作品ではないが、その1例である可能性を視野にいれ執筆した。また、愛媛県松山市の医座寺に安置される降三世明王立像は、未調査の作品であったが、拝見する機会を得た。実地調査を通し、作品の現状を詳しく観察することができ、同時に御住職から修理に関する情報を得られたことで、調査後に松山市教育委員会・文化財課のご協力を頂き、修理前および修理課程の写真を拝見することができ、現状の補修・新補情報を確認することができた。神護寺五大堂の五大明王像は、これまで写真が紹介されておらず、十分な情報がなかったが、実地調査を通し、記録写真の撮影とともに、制作年代、各明王像の図像的特長、現在の安置状況などを確認することができた。古代・中世の五大明王の図像研究に直結する作品ではないものの、金剛夜叉明王の図像において三面三眼像が選択されていた点をはじめ、幾つか注目される点も確認できた。

### 4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①金剛夜叉明王	②五大明王	③愛染明王	④金剛薩埵
⑤密教図像	⑥集合明王	⑦日本密教	⑧中国密教

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもの数件を記載。)

本年度中刊行、刊行予定の本研究に係る研究成果としては以下の2件があげられる。

- ① 見田隆鑑「愛染明王の像内納入品と像内の荘厳について」『調査報告 重要文化財 甚目寺愛染明王坐像』、甚目寺観音、平成24年11月18日発行、pp.48-54。
- ② 見田隆鑑「大郷町教育委員会所蔵の3体の明王像について」(『椋山女学園大学文化情報学部紀要』第12巻、2013年3月31日発行予定、報告書提出時は頁数未定。

本研究を通して、未調査で十分な資料のなかった新たな作品を調査し、情報を収集・整理することができた点は成果があげられたが、研究目的とした金剛夜叉明王自体の個別研究(特にその成立に関する研究)に関しては、未だ十分な方向性が示せる段階に至っておらず、今後引き続き研究を継続していく必要がある。地域資料のデジタルアーカイブ化が進む中で、情報公開される作品も出てくるものと思われるので、注意を払いながら研究を進めたい。